



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4465 号 2018.6.28 発行

こだわりパン、チョコレート… 障害者の高品質製品、次々誕生



京都新聞 2018年6月26日
スタイリッシュな内装も人気の「NEW STANDARD CHOCOLATE kyoto」(上京区)

障害者が作り販売する製品の中から、高い品質で全国や地域の人たちから支持される「究極のハンドメイド」との言葉が似合う魅力的な品が次々と生まれている。生産や販売の現場を訪ねると、作り手・売り手と買い手が喜びを分かち合う姿に、障害の有無にかかわらず私たちがめざす社会の方向が垣間見えた。

えた。

京都市伏見区醍醐辰巳町で、5月にオープンしたベーカリーカフェ「ふらっと」は、パンの種類によってフランスや北海道など小麦粉の産地を変え、専門職の手ほどきを受けて焼いた60〜70種類をそろえる。近所の森本幸子さん(63)は毎週通うリピーターで、知人の分も買い求めた。

記者は、ダウン症の新谷奈々花さん(21)について飲み物を出したり、食器を洗ったり体験させてもらった。新谷さんに接客の極意をたずねると、「ない!」ときっぱり。「お客さんがニコニコしているのが見られるから、(食事を)運ぶのが好き」と教えてくれた。物おじせず、底抜けの笑顔が一番の秘けつなのだろうと学ぶ。

経営する京都市だいご学園(同区)の寺地ヒサ子園長は「障害者だからではなく、こだわりのあるものはおいしいやん!と言われたい」と意気込む。

全国から注目を浴びるチョコレートショップが、上京区の堀川商店街にあるチョコレートショップ「NEW STANDARD CHOCOLATE kyoto」だ。抹茶やほうじ茶味に黒豆などがアクセントになった「京テリーヌ」は特に人気で、客足が絶えない。

高級ホテルのチョコレートなどを開発してきたショコラティエの野口和男さんと全国の福祉事業所が連携したプロジェクトの1号店。障害者が製造に携わることをあえて強調せず、商品力でファンを増やしている。経営するNPO法人「エクスクラメーション・スタイル」(中京区)の板倉信太郎理事長は「ここで働きたいと思ってもらえるカッコいい店」を心がけているという。「福祉製品」として別枠にするのではなく、一般市場に福祉製品も自然に並ぶような世界を目指しているという。

障害者の就労支援などに取り組むNPO法人「京都ほっとはあとセンター」(中京区)によると、同法人が「ほっとはあと製品」と名付けて販売を支援する福祉事業所製品の取り扱い数と売り上げは、年々増加している。1斤660円の高品質食パンや首都圏の百貨店から注文が入るマドレーヌなど多彩だ。新製品開発事業総括の澤田雄児さんは「かわいそ

うな人が作ったんで買ってくれという売り方はしない」としたうえでこう語る。

「障害があってもなくても自身のキャリアデザインを描けるよう、選択肢を増やしたい。誰もが地域の一員として誇りを持って社会参加につながってほしい」

平日 2 時間だけのラーメン店 その理由は？

NEWS24 2018 年 6 月 26 日



平日に 2 時間だけオープンする大阪のラーメン店が、連日、賑わいをみせている。なぜ 2 時間だけなのか、それには理由があった。店があるのは大阪の福祉センターの中、施設に通う知的障害者たち 18 人が働いている。調理場のいたるところにメモ書きが貼られていた。「麺を入れたら湯がく」「すすぐ場所」作業のルーティーンがすべてメモに書かれているため、知的障害者も迷わず

一定品質のラーメンを提供することができる。現在は知的障害者の集中力、体力を考慮し平日のお昼 2 時間だけの営業だが多い日には約 50 人の客が訪れ、ラーメンを楽しみ、そして知的障害を知る場所になっている。今後は当事者の意思を尊重しながら営業時間の拡大も視野に入れている。ラーメン店で働く女性「チャーシューの仕込みは楽しいと思う。楽しいときにうれしいです」住吉総合福祉センター館長・原田徹さん「人は必要とされることを必要とする。彼らもここのラーメン屋さんで、彼らを必要とする場所があると、場所を作ることが僕らの役割だし、それは障害があるなしにかかわらず、誰にとっても必要だと思う」【the SOCIAL life より】

手話カフェ スマイル0円 聴覚障害者ら運営 福岡・博多

毎日新聞 2018 年 6 月 26 日

耳が不自由なスタッフらが手話や筆談で接客する手話カフェ「nico」が福岡市博多区千代にある。「聴覚障害者にも健常者と同じ仕事を」との思いから、2 月にオープンして 4 カ月あまり。店名の「nico」には「働く人もお客さんも笑顔になれる場所」との願いが込められている。【末永麻裕】

店内は 1、2 階の約 40 席。店に入ると、注文はカウンターにあるイラスト付きのメニュー表を指さして伝える。「指さしてね」と書かれたパネルや筆談用のホワイトボードが置かれ、着席後に要望がある時には手を挙げてホワイトボードで筆談をする。手話を使えれば手話で注文やスタッフとの会話ができる。

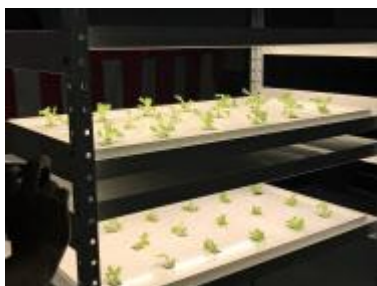
運営するのは、福岡市で障害者福祉サービス事業所を展開する一般社団法人ノーマライゼーション。代表理事の松本昌彦さん（60）は長年、聴覚障害者の働きぶりを見てきた経験から「第一言語が手話で、（健常者と）言葉が違うだけ」と感じていた。新たな就労場所をつくれぬか模索していた時、テレビで東京の手話カフェを知って開業を決意。昨年 5 月から市主催の手話教室に通い始めた。

その教室で同じ生徒として出会ったのが現在店長を務める本野（もとの）有華さん（28）。前職のホテルのフロント業務で聴覚障害者の宿泊者とコミュニケーションが取れなかったことから手話を習い始めた本野さんは、松本さんがカフェ店長を探していると知り「手話を生かせるなら」と経験のない飲食業に飛び込んだ。

スタッフは 7 人で、うち 5 人が聴覚障害者。賃金や勤務時間は健常者と変わらず、松本さんは「カフェの仕事に聴覚障害者も健常者もない。手話や自分の能力に自信を持ち、接客業でも働けるんだと希望が持てるような店にしたい」と話す。

スタッフで聴覚障害がある宮崎柚希さん（21）は、接客の仕事を希望して何度も採用されず、心が折れかかっていた時に募集を見つけた。「接客は難しいこともあるけれど、お客さんに『ありがとう』『また来るね』と笑って言われることがうれしい」と店名のような

満面の笑みを見せた。



共立電機製作所など、植物工場新設 宮崎大と共同研究

日本経済新聞 2018年6月26日

米良企業グループの共立電機製作所（宮崎市）と共立電照（同）は26日、植物工場を新設し、宮崎大学と植物生産などについて共同研究を進めると発表した。共立電照の発光ダイオード（LED）照明を用いた植物工場で、LED照明で光波長を応用した栽培管理の最適化技術を宮崎大と共同開発する。

新設する植物工場の栽培室の内部の様子（宮崎市の共立電機製作所内）

研究実証設備は「808MERA植物工場」で、共立電機の工場内に7月に着工、11月から稼働する。延べ床面積100平方メートルの栽培室を3室、発芽室を2室設ける。ステンレス製の閉鎖型無菌室で、作業員は身体障害者10人を含む15人程度を予定している。

第1栽培室ではレタスを栽培する。植物工場では通常収穫までに37日程度かかるが、共立電照の持つLED照明をまんべんなく照射する技術で1週間程度短縮できるという。この結果、年間で収穫を2回増やせるとしている。11月から1日600～800袋（1袋は1株）を出荷する。

第2栽培室は宮崎大との共同研究にあてる。栽培環境や生体情報、培養液処方などのデータを蓄積し、このビッグデータを解析することで、光質制御による増収・高品質化、専用培養液の処方などを開発する。

パン教室、工作… 発達障害児が楽しめる場を

大分合同新聞 2018年6月26日

パン生地の作り方を教える中川さん（左）と、安部さん親子＝大分市



発達障害がある子どもたちの趣味や楽しみを増やす場が広がっている。専門家の助言を受け、特性を考慮した活動内容や環境などを工夫。



じっとしていられない、他者とのコミュニケーションが難しい、新しい環境に適応できない……。さまざまな理由で習い事や芸術鑑賞をためらってきた現状が少し変わりつつある。

「どすこい、の手つきで生地を伸ばしましょう」。今月10日に大分市内のキッチンスタジオであった親子パン教室。企画した講師の中川望さん（33）＝宇佐市子安町＝は腕を伸ばし、相撲の押す動作をしながら優しく説明した。

教室は障害児向けに初めて開催。自閉症や注意欠陥多動性障害などがある子や母親ら9人が参加した。

別府市鶴見の作業療法士津田憲吾さん（34）が協力し、特性を把握。▽作業工程を書き出して見通しを示す▽疲れたときの休憩場所を設ける▽具体的な表現で説明する一ことなどに心を配った。

2時間半ほどで、ふっくらとしたパンが焼き上がると歓声が上がった。「これまでは通うことができる場所がなかった。画期的な教室ですね」と、娘（19）と参加した大分市片島の安部雅枝さん（52）。

みんなの喜ぶ顔を眺めながら、中川さんは「自分に自信をつけるきっかけの場所にして

いきたい」と話した。

特性を考慮し工夫

宇佐市木部では2016年から月に1度、約30人の親子らがカフェに集まり、障害の有無に関係なく絵画や粘土工作などを楽しんでいる。創作活動の場を設けたのは、長男（13）に発達・知的障害がある作業療法士杉木恭子さん（41）＝中津市三光。「アートは自分を自由に表現できる。みんなの可能性が広がる場所になれば」と願う。

映画を楽しむ新たな試みも。国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭のプレイベントとして7月16日、発達・知的障害者を対象にした観賞会が別府市のビーコンプラザで開かれる。会場を暗くすることや大きな音が出ることを上映前に説明。変化に対する不安感の軽減を図る試みは県内では初めてという。

大分、別府両市では発達障害の子どもたちが参加できるスポーツ教室もある。津田さんは「(障害の)特性が認知されてきたことで、活動できる場が広がってきたのではないかとみている。

東京) 障害者施設の愛唱歌を制作、披露 日野の社福法人 川見能人

朝日新聞 2018年6月28日

お披露目会では参加者らが歌を合唱した＝2018年6月27日午後2時23分、東京都日野市旭が丘、川見能人撮影



東京都日野市の社会福祉法人「夢ふうせん」で27日、障害者施設の関係者向けに愛唱歌として作った歌「みんな大事な仲間たち」のお披露目会があった。普段は忘れがちな各団体の理念を歌ったもの。職員らが心に留め、より良い支援につなげてほしいと有志が作った。

会では、職員や利用者ら約100人が合唱。昼休みなどに流すといい、浅野大輔施設長（44）は「覚えやすく、心にしみいってくる。他の施設の人たちにもお勧めしやすい歌です」。

障害者福祉に携わる法人は、利用者の「尊厳」や「自己実現」などの言葉を理念に掲げることが多い。一方で、業界では職員が利用者につらく当たってしまうことも、時にはあるとされる。2016年には相模原市の障害者施設で元職員が入所者らを殺傷する事件も発生。こうした状況に、夢ふうせん理事長を務める湯口裕さん（77）らが「理念への理解を支援に携わる人たちがもっと深めれば、接する態度にも表れるのでは」と考えたという。

障害者らへ就労の場を カフェ開業費用120万円募る 鹿沼のNPO法人

下野新聞 2018年6月28日

オープン予定のカフェで福田さん（左）と宇賀神さん



【鹿沼】鳥居跡町のNPO法人CCVが、障害者や外出に不安を抱えている人の就労支援の場となるカフェ開業を目指している。それに伴い、ネット上で開業資金を集めるクラウドファンディング（CF）を行っている。

同法人はひきこもりや発達障害の子どもたちの支援をしたり、障害者に就労やリハビリの場を提供したりしてきた。

CFの申し込みは専用サイト「レディフォー」から。7月20日まで。(問)同法人0289・74・7070。

香川) 障害者の就職件数、6年連続で過去最高 森下裕介 朝日新聞 2018年6月28日

香川労働局は、県内のハローワークを通じた昨年度の障害者の就職件数が、793件(前年度比8・6%増)と6年連続で過去最高になったと発表した。今年4月には企業などに義務づけられる雇用率が上がり、労働局は今後、さらに増えるとみている。

労働局によると、障害者の新規の求職申し込みは1593件(同11・2%増)で、就職率は49・8%(同1・2ポイント減)だった。

就職先は、産業別で医療・福祉が215件と最多。卸売業・小売業137件、製造業135件、サービス業72件と続き、この4業種で全体の7割を占めた。

<旧優生保護法> 「障害児を施設に仲介」 宮城の元民生委員証言



河北新報 2018年6月28日

「障害児は施設に入った方が本人や家庭のためになると思い、手術も仕方ないことと考えていた」と語る元民生委員の男性=宮城県内の自宅

旧優生保護法(1948~96年)下で強制不妊・避妊手術が繰り返された問題で、宮城県内で60年代から90年代まで民生委員を務めた男性(86)が河北新報社の取材に応じ、「障害児のいる家庭を回り、施設への入所を仲介した」と、当時の活動の一端を証言した。関わ

った児童数人が入所後に強制手術を受けたことも明らかにし「国の決めた手術だから問題ないと考えていた」と心境を語った。

男性は68年に民生委員となり、少なくとも当時10代の男女5人の施設入所を仲介した。「多くの場合、障害児のいる家庭の近隣住民から役所(自治体)に情報が寄せられ、役所の指示で家庭訪問し施設入所を勧める流れだった」と話した。

入所後に手術を強いられる児童が多いことは「暗黙の了解で分かっていた」と説明。「当時の施設は男女が一つの部屋で生活するのが当たり前で、施設側は妊娠トラブルを敬遠して手術を進めたようだった」という。

男性が40代の頃、仙台市内の施設に紹介した10代の男子児童は、入所後に言語障害を理由に避妊手術を受けた。「手術に至った詳しい経緯は分からないが、本人が手術を受けたいと意思表示するはずがない。周囲が仕向けて陰で隠れてやる『後ろめたい手術』という印象はあったが、手術の是非に疑問を持つことはなかった」と振り返った。

民生委員の仲介活動は行政側の要請が背景にあったとみられる。県は57年3月発行の「民生委員児童委員の手引」で旧法への対応に関し、「(手術)対象者が(福祉支援など委員の)実質活動面に関係する階層が多く、側面的な協力が期待されている」「該当者の調査や斡旋(あっせん)等は心得ておくべき事」と強調した。

5月に旧法を巡る国家賠償請求訴訟を仙台地裁に起こした県内の70代女性は、中学3年時に民生委員の仲介で仙台市内の特別支援学校に転校。不妊手術に同意するよう保護者を説得したのも民生委員だったという。

男性は「女性の訴えを報道で知り、胸が締め付けられた。民生委員が先導して障害者の施設入所を進めたのは事実で、手術は最終的に公的機関が決めることだから問題ないと考えていた。責任の一端を感じている」と述べた。

北海道) 施設通所者たちが機織り、裂き織りに挑戦 池田敏行

朝日新聞 2018年6月28日

北海道本別町にある障害者の通所作業施設「ほんべつ つつじの園」(新津和也施設長)の通所者たちが、機織りや、古い着物などを裂いて織り直す裂き織りに挑戦している。今

春加わった支援員の手ほどきを受け、コースターやランチョンマットなどを作る。父母たちは「大きなものもできるようにって給料アップにつながってほしい」と期待を寄せている。



芳川なおみさん（左端）から機織り、裂き織りの指導を受ける通所者＝本別町

つつじの園には町内の知的障害者の男女13人が通う。年齢は15歳から54歳までと幅広い。



これまでは牛乳パックから名刺やはがきを作ったり、小物の袋入れ作業、他の施設の清掃、ズック洗いなどをしたりしてきた。だが、なかなか高い利益にはつながらず、1人当たりの平均月収は約8千円にしかならないという。

今春、千葉県立湖北特別支援学校（高等部）で指導してきた芳川なおみさん（61）が定年退職した。ちょうどそのころ、つつじの園が職員を募集しており、夫の父の面倒を見るために十勝へ来ることを考えていた芳川さんが応募して新津さんと面接。即座に支援員として採用が決まった。

全盲・車いすの音楽家、日本一に 京都、ブルースハーブ奏法磨く



京都新聞 2018年6月27日

独自の奏法を磨き、ブルースハーブのコンテストで優勝した山下さん（京都市左京区）

6月に行われたブルースハーブ（ハーモニカ）の全国コンテストで、全盲で車いすのミュージシャン山下純一さん（43）＝京都市北区＝が優勝した。病気のため変形した手で楽器の持ち方を工夫し、個性的な奏法を磨いた。「音楽に障害は関係ない」。長年の思いを実現させた。

山下さんは小学生のころに車いす生活になり、視力も低下。府立盲学校高等部時代にドラムを始め、音楽にのめりこんだ。佛教大在学中に失明し、難病の診断を受けた。体調が悪化しドラムをたたけなくなったころ、ハーモニカに出会った。

23歳でバンド「珍獣王国」を結成し、10年間ボーカルとハーモニカを担当。その後はソロ活動を続け、2013年には障害がある人の音楽コンテストでグランプリに輝いたが、一方で物足りなさを感じていた。

『障害者枠』を超えたい。強く思うようになっていた今春、「R-1ぐらんぷり」で弱視の漫談家、浜田祐太郎さんが優勝した。障害のあるなしに関わりない活躍に刺激を受け、世界ハーモニカ連盟日本支部が主催するブルースハーブ・コンテストへの挑戦を決めた。

病のため自由に動かない手首の角度を工夫し、楽器とマイクを固定する。今月上旬に東京で開かれたコンテストでは自作のブルースを演奏し、独自に長年磨いてきた奏法を披露した。予選を通過した12組のミュージシャンと競った結果、審査員から「演奏が個性的」と評価され優勝した。

「音楽には障害者も健常者も関係なしにつながれる。『障害は個性』とようやく言える」と言葉に力を込める。「今後は海外の大会にも挑戦してみたい」。新たな夢を抱きながら、今後も自分だけに出せる音を響かせるつもりだ。

神奈川) 横浜マの知的障害者チーム、社会人リーグ参戦へ 安藤仙一朗

朝日新聞 2018年6月28日



体育館で練習するフトゥーロの選手たち=2018年6月12日午後8時11分、横浜市神奈川区、安藤仙一朗撮影



サッカーJ1の横浜F・マリノスが運営する知的障害者のサッカーチーム「フトゥーロ」が、来月から横浜市



市の社会人リーグに参戦する。発足から15年目を迎え、大きな挑戦に出た。選手の実戦経験を増やすことと、知的障害者サッカーを広く知ってもらうのが狙いだ。



マリノスによると、フトゥーロは初のJリーグクラブによる知的障害者のサッカーチーム。2004年4月、マリノスの本拠・日産スタジアム(横浜市港北区)に隣接する障害者スポーツ施設「横浜ラポール」のサッカーチームを母体に41人でスタートした。

いまは88人の選手が在籍。選手のレベルに合わせてAからEの5チームに分かれている。そのうち、最もレベルの高いAチームの選手を中心に、横浜市の社会人リーグ「横浜市民リーグ(YSL)」の3部に挑戦する。

ダンサー大前さんら大使に 東京五輪・パラへ 任命式

産経新聞 2018年6月27日

「しながわ2020スポーツ大使」に任命され、ポーズを取る(左から)義足ダンサーの大前光市さん、元競泳女子の伊藤華英さん、(1人おいて)ブラインドサッカー日本代表の川村怜選手=27日、東京都品川区



東京都品川区は27日、2020年東京五輪・パラリンピックに向けて大会機運を盛り上げる役割を担う「しながわ2020スポーツ大使」として義足プロダンサーの大前光市さん(38)ら3人を選び、任命式を開いた。

16年リオデジャネイロ・パラリンピック閉会式で独創的な踊りを披露した大前さんは「残り2年で人の可能性を伝え、障害に対する捉え方を変えていきたい」と語った。

競泳で五輪2大会出場の伊藤華英さん(33)、視覚障害者らによる5人制のブラインドサッカー日本代表の川村怜選手(29)も任命された。川村選手は「勇気や感動を伝えたいし、競技を会場ですべてに見て魅力を知ってほしい」とPRした。

独居や高齢者の「見えない被災者」支援を 大阪北部地震 神戸新聞 2018年6月28日

大阪府北部地震で、家屋の外観は被害が目立たないものの、内部は家財などが散乱している被災者の事例がクローズアップされている。多くは独居などの高齢者とみられ自力で

片付けが困難だが、被災状況が一見して分かりにくく支援の手が行き届いていない。都市ならではの地域コミュニティの希薄さも影響しており、兵庫のボランティア団体は「見えない被災者」に寄り添うため実態把握に動きだしている。

室内を片付けるボランティアの女性（右）と、被災した女性（奥）＝23日午前、大阪府高槻市登町

「きれいになったわ。逃げ道ができて万歳」

地震後で最初の週末だった今月23日、同府高槻市の女性（82）は物が片付いた自宅内を見て、ほおを緩ませた。

自宅は同市南部にある府営団地の1階。建物に大きな被害はなかったが、室内は玄関や廊下にガラスが飛び散り、重い冷蔵庫や戸棚の場所がずれていた。

精神疾患を抱えた長男と2人暮らし。持病で左肩が上がらない。途方に暮れていた時、様子を聞きつけた「ひょうご災害ボランティアシニアクラブ」のメンバーが駆け付けた。

女性は「地震直後に市役所を訪ねたけれど、職員は出払っていた。自分たちではどうしようもなく本当にありがたい」と目に涙を浮かべた。

同クラブ会長で、ひょうごボランティアプラザ所長の高橋守雄さん（69）は「被災者が潜在化して見えないのが、今回の特徴ではないか」とみる。

2年前の熊本地震では、自治会が地元の被災状況を集約し、行政やボランティアに情報提供する仕組みがあった。今回は住民同士の間関係が希薄な都市圏の被災で「隣人の被災状況すら分からない。支援する側が被災者を探す必要がある」と高橋さん。同クラブは今週末、被災者の実態を調べる。

総務省消防庁のまとめでは、京都、大阪、兵庫、奈良の近畿4府県の住宅被害は27日時点で計1万2750棟。全壊や半壊はごくわずかで、99%以上が一部損壊とみられている。街並みからは被害状況が把握しにくい。地震の翌日に自宅で亡くなっているのが見つかった男性（66）もいた。

西宮市の「日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）」は同府吹田市を中心に、室内の片付けなどボランティアの依頼を計200件受けた。活動中に「こっちにも来て」と被災者から声がかかったといい、被災者ニーズの掘り起こしにも努めている。（太中麻美、金 旻革）

■地道に働きかけを

【日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）理事長の渥美公秀・大阪大大学院教授の話】都市部は地域のつながりが薄くなりがち。特に支援が必要な高齢者や障害者はインターネットを見ないことも多く、情報が届きにくい。ボランティアの側から地道な働きかけを続けるしかない。支援をどう地域に引き継ぐのかも課題だ。



横領疑いの社協職員解雇 宮崎・西都、高齢者から 産経新聞 2018年6月27日

宮崎県西都市の市社会福祉協議会は27日、高齢者や障害者の現金管理を代行していた30代の男性職員が、利用者らの現金を無断で引き出すなどして約57万円を着服した疑いがあるとして、懲戒解雇したと発表した。男性は「横領はしていない」と否定しているが、全額を返還した。業務上横領の疑いで刑事告訴も検討している。市社協によると、男性は昨年10月～今年3月にかけて、利用者に無断で口座から現金を引き出したり、利用者へ返還すべき現金を入金しないなどの手口で着服したりした疑いがある。他の職員が書類の不備に気付き、その後の内部調査で発覚した。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

